

# 学校法人金城学園

## 第3期中期計画

<社会の変化に対応し、地域・社会に必要とされる人材を育成する。>

令和3（2021）年4月1日～令和8（2026）年3月31日

令和3（2021）年3月

（令和5（2023）年度改訂版）

# 学校法人金城学園 第3期中期計画

## 目次

I. 学校法人金城学園 第3期中期計画について	1
II. 第2期の検証と第3期の背景	2
1. 第2期の検証	
2. 第3期の背景	
III. 第3期中期計画の基本方針等	6
1. 建学の精神、教育理念及び設立の理念、教育目標	
2. 第3期中期ビジョン・基本方針	
3. 中期目標	
4. 重点計画	
IV. 第3期中期計画（部門別）	11
1. 金城大学	
2. 金城大学短期大学部	
3. 遊学館高等学校	
4. 金城大学附属西南幼稚園	
5. 法人本部・金城幼稚園	

# 学校法人金城学園 第3期中期計画

## 令和3(2021)年4月1日～令和8(2026)年3月31日

### I. 学校法人金城学園 第3期中期計画について

金城学園は、明治37(1904)年に創設された金城遊学館を淵源とし、115年を超える歴史を刻んでいる。建学の精神に「遊学の精神の涵養」及び「良妻賢母の育成」を掲げ、また「教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。」という教育理念を旨として、一人ひとりの個性を磨く教育を推進し、今日、金城大学(以下「大学」という。)、金城大学大学院(以下「大学院」という。)、金城大学短期大学部(以下「短期大学」という。)、遊学館高等学校(以下「高校」という。)、金城幼稚園及び金城大学附属西南幼稚園(以下「西南幼稚園」という。)の各学校を設置する学園となっている。

大学・大学院は、地域の教育研究拠点となることを目指し、保健・医療・福祉、教育等の分野の人材の養成を行うとともに、白山市や野々市市等と包括協定を締結し、専門性をいかして地域の発展に資する活動に取り組んでいる。短期大学は、大学ともども産官学の連携を深めつつ、地域社会に密着した教育研究活動を展開し、卒業生の学び直し支援や新社会人のキャリア形成支援も始めている。高校は、文武両道を奨励して、高い人格と深い情操を育む教育を行っており、情報社会やグローバル社会に対応した取組も推進している。西南幼稚園では、大学や短期大学との密接な連携のもとに先進的な取組を取り入れ、豊かな心を育む教育を実践している。

これまで金城学園は、社会経済構造の変化に対応しつつ、平成23(2011)年に、第1期に相当する「中長期事業計画(副題:明日に向かって(原点を見つめ、今なすべきこと))2011年4月～2016年3月」を策定した。次いで、平成28(2016)年に、「第2期中期目標・中期計画(副題:地域とともに輝く学園を目指して)2016年4月～2021年3月」を策定した。第1期は、経営基盤の安定化、組織の活性化に力点を置き、第2期は、教学に関する目標・計画の比重が高いものとした。

これらを踏まえ、今般、第3期中期計画を策定するが、次のような指針で策定した。

- ① 私立学校法上の事業に関する中期的な計画として策定する(期間:令和3(2021)年4月1日から令和8(2026)年3月31日までの5年間)。
- ② 中期計画をマスタープランとして位置づけ、中期計画を具体的に実行するための行動計画(アクションプラン)を策定する。
- ③ 現状の課題を分析し、教学に関する計画のほか、人事、施設、財務等に関する計画を盛り込む。

## II. 第2期の検証と第3期の背景

### 1. 第2期の検証

第2期では、(1) 人間教育(金城の「教育」を磨く)、(2) グローバル化と地域連携(金城の「ブランド」を磨く)、(3) 伝統と進化(金城の「変革力」を磨く)、(4) 安定と充実(金城の「組織・経営基盤」を磨く)の4つの中期基本目標(中期ビジョン)を掲げ、地域社会の発展に貢献し地域とともに輝く学園の形成を目指すこととした。

教学面では、大学及び短期大学において就職率はほぼ100%を達成、大学において介護福祉士、理学療法士、作業療法士、看護師の4国家試験で100%の合格率を達成し、地域の各施設・企業等に就職するなど地域発展に寄与した。また、グローバル化に対応した教育活動の国際化と各種の地域連携活動に取り組み、地域の活性化にも貢献した。

経営面では、高校第1体育館の建設など大型の施設設備の整備に取り組んだ。経営基盤の基礎をなす入学定員充足率は一部未達成となり、大学の学部改組が次期中期計画の課題となった。事業活動収支差額比率5%以上の目標に対し、計画期間の後半は未達成となったものの3%以上を確保し、第2期計画期間中の財務内容(純資産構成比率)は改善した。

第2期計画を総じて、「概ね達成」したものと評価する。

各項目の目標達成状況は、以下のとおりである。

#### (1) 人間教育(金城の「教育」を磨く)

大学及び短期大学においては、三つの方針(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針の三つを指す。以下同じ。)について毎年検証し、適宜見直しを行った。また、シラバスの改善並びにFD(ファカルティ・ディベロップメント。以下「FD」という。)、アクティブ・ラーニング、実習指導の強化等による教育の質向上の推進並びに学生生活支援、就職支援等を充実させた結果、就職希望者の就職決定率はほぼ100%を達成した。一方、学部学科等の組織変更に対応した設立の理念の意味内容等の再確認は十分に実施できなかったため、第3期は教学マネジメントに含めて着実に実施したい。

大学においては、学生が4年間の集大成として合格を目指す国家試験の対策を充実させた結果、令和元(2019)年度卒業生は、介護福祉士、理学療法士、作業療法士及び看護師の4試験において100%の合格率を達成した。一方、多職種連携教育の導入については一部の学部学科に留まったことから、第3期は全学において着実に実施したい。

大学院においては、マルチメディアを利用した双方向授業が実現し、図表、動画等多彩な表現を活用した教育研究活動やアクティブ・ラーニング等の教育体制整備の発展につながった。一方、大学院生の教育的・経済的支援を目的としたTA(ティーチング・アシスタント)制度の導入は実現に至らず、第3期の課題として残った。

短期大学においては、学生リーダーと連携した各種取組を通じて諸活動の活性化につながるとともに、学科ごとのカリキュラムの検証、見直し等を時機に応じてきめ細やかに行った。

高校においては、文武両道を推奨しており、独自のプログラムとして「遊学講座」を開

設し、生徒が教養、実習、スポーツ、芸術などの中から希望の講座を選択し、能力を高めている。また、部活動を推奨し、礼儀や忍耐力、愛校心を涵養するとともに、人格形成に寄与した。男女卓球部、バトントワリング部、男女駅伝競走部、吹奏楽部等は全国レベル又は石川県トップクラスの成績を収めることができた。一方、進学実績は目標に届かず、第3期の課題として残った。

西南幼稚園においては、学校関係者の評価等を基に園児の人格形成の基礎固めに取り組んだ。異年齢児との関わり合いや自然や動植物と触れ合いの機会を増やし、自己を発揮する力、相手を思いやる心、自然や生命に対する親しみや畏敬の念を育んだ。

## (2) グローバル化と地域連携（金城の「ブランド」を磨く）

グローバル化については、新たにフランス、ベルギー、中国の教育研究機関と連携協定等を締結した。

大学においては、ホーゲント大学（ベルギー ゲント市）や上海健康医学院（上海市）と教育学術交流協定を締結するとともに、台湾の協定校からの交換留学生の受入れを開始し、これまでに延べ6人が本学で学んだ。また、大学・短期大学においては、女子バレーボール部（強化指定クラブ）による台湾の教育学術交流協定校を含む諸大学、高校等との親善試合等を通じ、双方の学生・教職員を含めた各種交流を深めた。一方、留学生入学者数は目標に届かず、第3期の課題として残った。

高校においては、平成28（2016）年度にフランスの私立高等学校と姉妹校の提携を行った後、生徒間及び教員間の交流を重ね、令和元（2019）年度には同姉妹校から来校した生徒12人を本校生徒宅にホームステイで受け入れた。併せて、平成29（2017）年度からは男子駅伝競走部（強化指定部）に所属する正規課程留学生の受入れを開始するとともに、外国人教員による授業を充実させることにより、全校の生徒・教職員を含めた各種交流につながった。

地域連携については、新たに7機関と連携協定等を締結した。

大学においては、地域の発展に資する個々の組織的研究活動を「Kinjo's Dream Project」に統合し、各活動の更なる充実につなげた。短期大学においては、産学連携ゼミその他の産学連携・地域連携活動を充実させた。大学・短期大学の学生や高校生による各種ボランティア活動も積極的に行った。

## (3) 伝統と進化（金城の「変革力」を磨く）

大学・短期大学においては、毎年度自己点検・評価を行い、評価結果に基づく改善を図った。

なお、短期大学においては、令和2（2020）年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会による大学機関別認証評価を受審し、「適格」と認められた。

また、大学・短期大学においては、社会の変化に対応し次のとおり改組、再編等を行った。

- ・ 平成28（2016）年 短期大学美術学科において、4コース制から6コース制に再編
- ・ 平成29（2017）年 大学社会福祉学部社会福祉専攻において、医療情報コースを設

置。大学院リハビリテーション学研究科を総合リハビリテーション学研究科に名称変更

- ・ 平成 30 (2018) 年 大学社会福祉学部社会福祉学科こども専攻を改組し、子ども福祉学科を設置。短期大学ビジネス実務学科にフードビジネスコースを設置
  - ・ 平成 31 (2019) 年 短期大学美術学科にインテリア・コーディネートコースを設置
- 高校においては、重点目標ごとの具体的取組を約 30 項目設定し、生徒のアンケートや客観的指標を基に毎年度自己評価を行い、評価結果に基づく改善を図った。
- 西南幼稚園においては、毎年度自己評価及び学校関係者評価を行うとともに、平成 29 (2017) 年度には第三者評価を行い、評価結果に基づく改善を図った。

#### (4) 安定と充実（金城の「組織・経営基盤」を磨く）

第 2 期の入学定員充足率は、5 年平均で大学 0.92、短期大学 0.95、高校 1.05 であった。高校は入学定員を充足したが、大学、短期大学では未充足となった。特に、大学の社会福祉学部の入学定員充足率は 0.78 と低く、第 3 期の課題として残った。

財務諸比率の改善向上について、人件費比率 60%以下の目標に対して概ね 63%から 64%で推移し、第 3 期の課題として持ち越した。教育研究比率 27%以上の目標に対しては概ね 22%台で推移した。管理経費比率 10%以下の目標に対して概ね 9%台で推移し目標を達成した。以上を総合して事業活動収支差額比率 5%以上の目標に対しては、平成 28 (2016) 年度 6.0%、平成 29 (2017) 年度 6.1%と目標を達成したが、平成 30 (2018) 年度 4.8%、令和元 (2019) 年度 3.4%と未達成となった。

建物の耐震改築及び教育環境の整備に関して、第 2 期に各校施設の新設・改修を行った。(高校第 1 体育館建設、高校サッカーグラウンド人工芝工事、高校空調設備改修、短期大学空調設備改修、短期大学トイレ改修、大学と短期大学の耐震化率 100%の実現)

組織体制の強化に関しては、令和元 (2019) 年度に「学校法人金城学園 金城大学・金城大学短期大学部ガバナンス・コード (自主行動基準)」を作成し、ガバナンスの基本的事項を公表した。なお、FD 及び SD (スタッフ・ディベロップメント。以下「SD」という。) の体系化は不十分なものとして残ったため、第 3 期は着実に実施したい。

## 2. 第 3 期の背景

我が国においては、IoT (モノのインターネット)、ビッグデータ、人工知能等を活用する「第 4 次産業革命」とグローバル化が一層進展し、地域においても本格的な人口減少社会の到来など社会経済構造の急激な変化が生じている。

地方私立学校が直面している課題は、地方において着実に進展している人口減少社会に備えつつ、社会経済構造の変化に対応した地方創生に資する教育に変革していくことであるといえる。

高等学校から大学 (短期大学を含む。) に進学する日本の 18 歳人口は、令和 2 (2020) 年が 117 万人のところ令和 22 (2040) 年には 88 万人となる見込みである。また、大学進学率が 53%から 57%に上昇するものの、大学への入学者は 62 万人から 51 万人と 20 年

間で17.7%落ち込むと予測されている。一方、中学校から高等学校に進学する石川県の15歳人口は、令和2(2020)年の10,165人から令和10(2028)年には9,382人となる予測であり、高等学校進学率は99.4%と頭打ちの状況であるため、高等学校入学者は10,101人から9,326人と8年間で7.7%落ち込むこととなる。石川県内高等学校の過去10年間の定員充足率は、私立は上昇し、公立は下降する傾向にある。また、石川県内の公私立大学、短期大学の入学定員は、平成28(2016)年度がそれぞれ約3,900人、900人だったのに対し、令和3(2021)年度には約4,700人、800人と合計が増加しており、さらに、令和3(2021)年度に私立専門職大学が1校、令和4(2022)年度に私立中学校が1校、開設する予定となっている。今後は、総じて大学、短期大学、高等学校とも今まで以上に入学者の確保が難しい競争激化の時代が続くと予想できる。

初等中等教育の政策については、令和3(2021)年1月中央教育審議会が、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たち(幼稚園児から高校生まで)の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」を取りまとめた。ここでは、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」が到来し、新型コロナウイルスの感染拡大等先行き不透明な「予測困難な時代」において、新学習指導要領の着実な実施とICTの活用等により、一人一人の児童生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要と述べている。

高等教育の政策については、令和3(2021)年2月中央教育審議会大学分科会が、「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方について」～教育研究機能の高度化を支える教職員と組織マネジメント～(審議まとめ)」を公表した。ここでは、デジタルトランスフォーメーションやグローバル化の進展により、世界的規模で激しく社会と価値観が変化している中で、大学は教育と研究の本来的な機能の発揮を通じて、社会の将来的な発展を支え、推進する基盤となるものであり、大学が知識集約型の価値創造システムの中核として機能し、変革の原動力となることが期待されること、また、学生と教員を擁している大学が、自由な発想をその源泉とし、教育と研究を一体不可分のものとして人材育成と研究活動を行っている仕組みが「知識の共通基盤」として社会を支えていることから、教育と研究を両輪とする大学教育の重要性とともに、さらなる人材育成と持続的なイノベーションの創出を進めていくためにも、大学の研究力を引き上げていくことが重要であることを踏まえ、目指すべき方向性として、大学内外の人的・物的リソースを様々な組み合わせ、総合的に教育研究機能を最大化し、教育・研究・社会貢献を実行することと述べている。

第3期中期計画は、以上の背景に基づき策定するものである。

### Ⅲ. 第3期中期計画の基本方針等

#### 1. 建学の精神、教育理念及び設立の理念、教育目標

第3期中期計画においても、金城学園の「建学の精神」、「教育理念」及び各学校の「設立の理念」、「教育目標」を基礎として中期目標・中期計画を策定する。

ここではまず、これらの精神、理念等を確認する。

##### (1) 建学の精神

###### ア 遊学の精神の涵養

明治37(1904)年に創設された「金城遊学館」が金城学園の始まりである。当初は、予備校を兼ねた塾のような学校であり、「遊学の精神」がその根底にあった。

現代においては「遊学」を「異郷の地で新しいものに触れ、そして新しいものを取り入れてどんどん自分を作り上げていくこと」と捉え、「遊学の精神の涵養」を「何のものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと」と解している。

###### イ 良妻賢母の育成

「金城遊学館」は、女子教育の振興を図るため、女子に必要な高等普通教育を授け、かつ師範学校への入学を志す者のために予備学科を教授する目的で創設した。翌年(明治38年)金城女学校となり、建学の精神に「良妻賢母の育成」を掲げた。

百年余の時を経た現代においては、「良妻賢母の育成」を広く捉え、「周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること」と解している。

##### (2) 教育理念

創始者の加藤廣吉、加藤せむは「率先垂範」、「質素勤勉」、二代目の加藤二郎は「教育とは云うてきかす事ではない。してみせる事でもない。している事である」を教育理念とした。

三代目の加藤晃(現 学園長)は「教育とは先生と学生の全人格のぶつかりあいの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である」を教育理念とした。つまり「学生と共に毎日学内で過ごす先生方の生活そのものが教育」であることを旨とし、この理念が現在の金城学園各学校の教育の礎となっている。

この長年にわたり脈々と引き継がれてきた教育理念の根底に流れているものはひとつであり、教員の人格による学生への全人教育である。

##### (3) 大学、短期大学の設立の理念

###### ア 金城大学の設立の理念

「明日の福祉社会を先導する福祉のリーダー的存在の養成」

現在は、保健・医療・福祉、教育などの領域における高度化・多様化するニーズに対



応し、社会の福祉の寄与することができ、指導的な役割を果たす人材を養成することと解している。

イ 金城大学短期大学部の設立の理念

「手づくりの温かさを持った教育」

教員と学生の全人格的な触れ合いによって、学生一人ひとりの個性を伸ばす教育を行うこと。

「金城から地球を歩こう」

遊学の精神を受け継ぎ、気軽に世界へ乗り出し、また、地球規模で物事を考え、世界を相手として活躍できる人間を育てること。

(4) 高等学校、幼稚園の教育目標

ア 遊学館高等学校の教育目標

「文武に励み、自らの品格を高めるとともに他者の人格を重んずる心を養い、遊学の精神を持って未来を切り拓く人間を育成する。」

イ 金城大学附属西南幼稚園の教育目標

「一人ひとりの個性を伸ばしながら、人間形成の基礎を養い、自主的にあそべる子どもを育成する。」

## 2. 第3期中期ビジョン・基本方針

第3期中期計画を策定するに当たり、金城学園の「第3期中期ビジョン」、「基本方針」を次のとおり定める。

(1) 第3期中期ビジョン

建学の精神、教育理念に基づき、「社会の変化に対応し、地域・社会に必要とされる人材を育成する。」を第3期中期ビジョンとする。

(2) 基本方針

我が国社会の少子高齢化が進み、社会の変化が速度を増す中で、金城学園は、変化に対応し、地域・社会に必要とされる人材を育成して、地域・社会の発展に寄与する学園となることを目指す。

第3期の教学に関する基本方針として、教育の質的向上を図りながら、地域・社会のニーズに応える教育を行い、研究や地域連携活動と併せて地域の活性化に貢献することを掲げる。

また、経営に関する基本方針として、必要な施設設備の整備を行うとともに、安定的かつ健全な財政基盤を確立・維持し、ガバナンスの強化を図ることを掲げる。

令和6（2024）年に学園創立120周年を迎えるに当たり、上記の中期ビジョン、基本方針の下に、更なる学園の発展を目指すものとする。

### 3. 中期目標

基本方針に基づき、第3期の中期目標を次のとおり掲げる。

#### （1）教育に関する目標

「地域・社会のニーズに応え得る教育を行うとともに、その質の向上を目指す。」

地域や社会のニーズに合い、かつ、学生・生徒・園児の需要や期待に応える教育（初年次教育、教養教育、キャリア教育、課外活動、学生・生徒等支援などを含む。）を行うとともに、必要に応じて学部学科改編等の教育組織の再編を行い、常にその質を向上させることを目指しつつ、各学校の教育目標を達成する。

#### （2）研究に関する目標

「地域の発展に資する研究を推進するとともに、その研究成果を教育にいかす。」

大学・短期大学における研究について、特に組織的な研究活動については、地域の活性化に資するよう大学・短期大学として取り組むことを推進する。

#### （3）地域連携・社会貢献に関する目標

「地域に根ざした学校として、教育研究の拠点となることを目指すとともに、地域の活性化に寄与することを目指す。」

大学は、保健・医療・福祉の分野における地域の拠点に、短期大学は、短期高等教育の地域の拠点となることを目指す。さらに、学生・生徒等及び教職員が積極的に学外へ出て活動することにより、地域の活性化に寄与するとともに、教育研究にいかしていくことを目指す。

#### （4）国際化に関する目標

「海外の学校との学術・教育交流や留学生受入れなどの推進により、多様な教育研究機会の拡充を図る。」

海外の学校との学術・教育交流や留学生受入れ、海外留学の機会の提供などを拡充し、多様な教育研究の機会を確保するとともに、特に学生・生徒等が異文化に触れる機会の提供を促進する。

#### (5) 経営・財政に関する目標

「入学定員を確実に充足し、財政基盤を確保し、収支の均衡を達成する。」

各学校とも入学定員を確実に充足し、収入を安定させるとともに、財務指標の目標を設定し、かつ、施設・設備の計画的な整備を行うことによって、収支均衡を達成することを目指す。

入学定員の充足に関しては、学校の教育力・ブランド力を高め、併せて効果的な学生募集や広報を遂行して実現を図る。

#### (6) 組織・運営体制に関する目標

「ガバナンスを強化し、FD・SD活動を推進することによって、法人本部及び各学校の機能強化を目指す。」

建学の精神・教育理念等に基づく各学校の教育目標を達成し、有為の人材を育成するため、自己点検・評価による改善・改革を推し進め、教育研究活動等の一層の充実に寄与できる組織・運営体制を構築する。

#### (7) 学園創立 120 周年記念事業に向けての目標

「令和 6（2024）年の創立 120 周年に向け、更なる学園の発展を目指し、それを具現化する記念事業を実施する。」

記念事業として、学部・学科等の新增設や教育施設の新築の検討を行うとともに、建学の精神・教育理念・設立の理念等の再解釈を含め、本学園の発展に資する事業を計画し、実行する。

## 4. 重点計画

第 2 期の検証及び第 3 期の背景、基本方針及び中期目標を踏まえ、重点計画を次のとおりとする。

#### (1) 教育研究、地域連携活動

大学においては、社会福祉学部の改組を最重点項目とし、教職課程の再編を含む国家資格を取得できる課程の充実にも取り組む。また、教学マネジメントを確立し、教育の質の向上を推進する中で、教養教育を充実させ、学部間連携教育・国内外の諸機関との連携協力を推進する。研究活動においては、大学として組織的な活動を強化し、種々の教育活動と併せて地域の活性化に資するとともに、科学研究費補助金等の研究資金の獲得件数の増加を含む、個々の教員レベルでの研究活動の活性化を図る。

短期大学においては、各学科のコース編成や教育課程を適宜検討し、必要に応じて再編するとともに、学科定員の見直しを行う。また、教学マネジメントを確立し、教育の質

の向上を推進する中で、基礎教育科目を充実させ、学科間連携教育・外部の諸機関との連携協力を積極的に取り組む。さらに、種々の教育活動を通じて、地域の活性化に資する産学連携、地域連携活動を推進する。

高校においては、教育目標を達成するため、教育の質の向上と授業の ICT 化に取り組む。併せて、教育課程の改善を中核として、大学・短期大学との連携や海外姉妹校との交流、進路指導の充実などにより進学実績を伸ばすとともに、人間教育を通じて学校生活に関する生徒の満足度を高める。課外活動については、強化指定部を中心とする部活動の更なる活性化や図書室の整備、学校行事の充実を図る。

西南幼稚園においては、保護者、地域のニーズに応え得る教育の推進に向けて、教育活動の体系化、大学・短期大学との連携及び点検・評価・改善のシステムを強化する。

## (2) 組織運営

学部・学科・課程などの教育組織の編成においては、時代や地域社会の状況に適合したものとなるよう整備し、これに対応する教職員を計画的に配置する。併せて、体系的な FD 及び SD を推進し、教職員の資質向上、能力開発を促進するとともに、大学及び短期大学教員の人事考課制度の導入を検討する。

また、各中期計画等の実現に向けて、特に大学及び短期大学では教職協働を推進し、関係部署と役割の枠を越えて十分な意思疎通を図り、共通の意識の下に一丸となって諸課題に取り組むこととする。

なお、金城幼稚園の存廃については、令和 5 年度末までには結論を出すこととする。

## (3) 施設設備

短期大学は、開学から 45 年が経過していることから、当初に建築した校舎の改築又は大規模改修を、第 4 期あるいは第 5 期中期計画の主要な施設計画とする。併せて、本計画当初、高校の学生寮の再編（新築を含む。）を重点項目としたが、令和 4 年度に高校の新学生寮の建設事業に着手し、令和 5 年 5 月着工、令和 6 年 4 月竣工（予定）で整備することとした。

このほか、各学校の校舎の改修、補修を年度ごとに計画的に行うとともに、情報ネットワーク環境を整え、情報機器を含む実習室・演習室・特別教室等の教育用機器備品を計画的に更新する。

## (4) 経営・財政基盤

健全な財政を維持し、教育研究活動を活性化させるため、教育の質の向上、広報・情報発信の充実を着実に実施し、適切な学生・生徒・園児の定員充足率を維持する。なお、定員充足が困難な部門については改組（定員の見直しを含む。）又はその準備を行う。さらに、教職員の計画的な配置や業務の効率化による支出抑制を図るとともに、補助金等を積極的に獲得し、併せて寄附金の募集についても前向きに取り組む。

#### IV. 第3期中期計画（部門別）

##### 1. 金城大学

###### （1）社会福祉学部の改組、課程改編の検討、大学院の充実

地域・社会のニーズに合い、かつ学生の需要や期待に応える教育研究を行うため、社会福祉学部を改組する。この当初計画に基づき、令和5年度より、社会福祉学部の名称を「人間社会科学部」に「子ども福祉学科」を「子ども教育保育学科」に変更した。また、令和6年度には、人間社会科学部の入学定員を実態に即し一部見直した。さらに地域・社会のニーズに応える教育体制への転換として、総合経済学部総合経済学科（入学定員150人、3年次編入学5人）の開設を構想し、令和5年3月に認可申請、令和6年4月開設（予定）することとした。本事業計画の確実な履行のため、法人・大学が一体となり取り組み、財政基盤の安定化につなげる。

看護学部においては教職課程の新設を検討の上、優先順位をつけて実施するとともに、看護学部における保健師養成課程の設置など、国家資格を取得できる課程の充実にも取り組む。併せて、留学生別科の設置について短期大学と調整しながら検討、実施する。

大学院においては、令和4年度に受審する機関別認証評価を契機として、地域の要望や期待にも応え得る修士課程レベルの実践的な教育研究を行い、医療機関・施設との連携・協力を深めつつ一層の充実を目指す。

###### （2）教学マネジメントの確立による教育の質の向上の推進

三つの方針に基づくカリキュラムを編成、実施し、学習支援や学生支援、課外活動などを推進して、学生の学修成果（学習成果）の獲得につなげるシステムを構築するとともに、それらを点検・評価し改善につなげることにより教育の質的向上を図る。

とりわけ、学外実習を含む専門教育とともに教養教育・初年次教育を充実させ、学部間連携教育、短期大学・国内外の諸機関との連携協力を推進する。

また、国家資格、専門的な資格の取得支援を強化し、リカレント教育などの卒業生支援にも取り組む。

###### （3）教養教育の充実及び学部間連携教育の推進

幅広い教養と汎用的技能を身に付けた人材を育成するため、教養教育の体系化を目指して「基礎・主題科目」を見直すとともに、ボランティア活動その他の課外活動及び外国語教育を含めたカリキュラムを充実させる。

また、保健・医療・福祉分野の3学部を持った、専門職を養成する大学としての利点をいかし、狭義の専門分野のみにとらわれない横断的な知識を身に付けた人材を育成するため、正課内外での学部間連携教育、多職種連携教育を推進する。さらに、改組後の社会福祉学部の各学科や短期大学との教育の連携を図る。

#### (4) 研究活動の活性化

組織的な研究によって地域の発展に資するため、「Kinjo's Dream Project」の活動を強化する。例えば、プロジェクトの一つ「やまの保健室」においては、超高齢化社会におけるモデル化に向けて、山間部で生活する住民の健康維持・増進に向けた取組を充実させる。併せて、各プロジェクト間の連携推進により、教育研究活動の更なる発展につなげるとともに、地域の活性化に資するものとする。このほか、地方自治体や企業等との共同研究等の促進に取り組む。

教職員個々の研究活動においては、科学研究費補助金その他の外部資金獲得件数・獲得額増加に向けた取組を推進し、研究活動の活性化を図る。

#### (5) 地域連携活動の推進

地域住民の学びの場を充実させるため、教育研究活動と連携した公開講座、出張講座、フォーラムを充実させるとともに、公開講座の単位化を検討する。

また、白山市と共同してボランティア活動を支援するとともに、自治体の各種行事・イベントへの参加、被災地支援等によりボランティア活動を充実させる。

「ゆうがく広場」その他の地域高齢者との交流事業においては、高齢者の参加者層の拡大及び参加者数の増加に向けた取組を強化し、参加学生に対する教育機会の拡大を図る。

子ども福祉学科においては、短期大学幼児教育学科と連携し、地域の子育て世代を対象とした「金城子育て支援センター」を開設し、専門知識をいかした子育て支援活動を推進する。

#### (6) 組織運営の充実

学部・学科・課程などの教育組織の編成においては、時代や地域社会の状況に適合したものとなるよう整備し、これに対応する教職員を計画的に配置する。併せて、体系的なFD及びSDを推進し、教職員の資質向上、能力開発を促進するとともに、教員の人事考課制度の導入を検討する。

また、事務組織の強化に向けて、教職協働をより一層進め、体系的なSDの推進、事務組織・事務体制の検証と改善、目標管理制度の定着・改善、事務の効率化と事務職員の育成を推進する。

#### (7) 施設設備の整備

施設の補修、図書館の整備、既存設備の安全・維持管理、学習・生活環境の充実、通信環境の整備その他の施設設備計画を適切に推進するとともに、大型の教育機器備品その他の設備を計画的に更新する。

また、キャンパス整備の組織的体制を整備し、改組計画に対応した長期計画を策定する。

#### (8) 効果的な学生募集・広報活動による入学者数の確保

中期展望に基づく戦略的募集計画の推進、効果的な情報発信等により、入学者数を適切に確保する。

また、入学者受入れの方針及び入学者選抜方法を定期的に確認・改善し、入学者のミスマッチ防止を図るとともに、併設校との連携を強化し、前年比 100%以上の入学者数を確保する。さらに、公式ウェブサイトによる情報発信、広報活動を強化するとともに、とりわけ、改組後の社会福祉学部の入学定員充足を図る。

大学院においては、入学者数の適切な確保に向けて、全国学会等での広報活動を推進するとともに、マルチメディアを利用した授業展開を周知する。

#### (9) IR 及び自己点検・評価の充実

入学時、在学時、卒業時の学生の期待と評価を専門的知見により調査分析し、その結果に基づく内部質保証を推進するとともに、中途退学者の調査分析に基づく減少対策、学修成果の可視化に向けた取組等を強化する。

また、卒業生、在学生の保護者、卒業生の進路先等からも意見聴取を行い、教育・研究・地域連携等の向上につなげる。

機関別認証評価については、令和 4（2022）年度受審に向けた対応を着実にを行うとともに、受審後の評価結果等を踏まえた中期計画の進捗管理を適切に行う。

#### (10) 他機関、団体との連携充実

包括連携協定締結機関・団体との連携活動を充実させ、企業、地方自治体との共同研究等学術研究に関する連携を推進する。

また、海外の大学との教育学術交流協定等に基づき、オンラインの手法も含めて、教員間、学生間における交流活動を促進するとともに、学生への教育機会の増加や留学生受入の拡大にも取り組む。※<sup>1</sup>

## 2. 金城大学短期大学部

### (1) 学科改組、コース改編、定員見直しの検討

短期大学の社会的存在意義を踏まえ、地域・社会のニーズに応え得る教育研究を行うために、設立の理念に基づく教育活動実践に向けた組織見直しを検討する。

幼児教育学科においては、地域・社会等のニーズに基づく入学定員見直しを検討する。

---

※<sup>1</sup> 平成 27 年度の公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価の参考意見「大学が毎年度実施する自己点検・評価活動について、今後は『金城大学・評価に関する規程』に定められた自己点検・評価項目に基づき確実に進むよう、より一層の充実が望まれる。」（基準 4. 自己点検・評価）については、平成 28 年度に改善に着手し、「平成 29 年度自己点検・評価報告書」を作成した。以降、定期的に本学規程に沿って自己点検・評価を行っている。

この当初計画に基づき、幼児教育学科の入学定員を実態に即し令和6年度より150人から90人に変更（予定）である。引き続き教育の質の向上と学生確保に邁進し、財務比率に見合った組織体系について検討を行う。

美術学科においては、Society5.0等を含めた動向を総合的に視野に入れ、美術分野の可能性を見極めたコース編成を行うとともに、入学定員見直しを検討する。

ビジネス実務学科においては、Society5.0に向けて、特色ある学科を構想しコース再編を行うとともに、地域・社会等のニーズ調査に基づく入学定員見直しを検討する。この当初計画に基づき、ビジネス実務学科の入学定員を令和6年度より実態に即し135人から95人に変更（予定）である。引き続き教育の質の向上と学生確保に邁進し、財務比率に見合った組織体系について検討を行う。

また、留学生別科の在り方を検討するとともに、履修証明プログラム、職業実践力育成プログラムの実施等により、生涯学習拠点としての機能確立させる。

## （2） 教学マネジメントの確立による教育の質の向上

三つの方針を見直すとともに、学修成果（学習成果）及び教育成果の可視化並びに社会への情報公表を含めた内部質保証システムを確実に運用する。

各学科のキャリア教育、幼児教育学科の「KINJO 特化」（特化教育）、美術学科インテリア・コーディネートコース、ビジネス実務学科の海外研修プログラム・インターンシップ制度・カフェテリア履修制度等の教育課程を見直し、より体系的かつ魅力的な教育課程の編成を行うとともに、授業科目の改善を推進する。

このほか、学習支援や就職進学支援、学生生活支援（学生相談を含む）、学校行事等により一層充実させるとともに、学生リーダー組織その他の正課外活動を活性化させる。

## （3） 学科間連携教育の推進及び教養教育の充実

「地域課題演習」等各学科共通の基礎教育科目、美術学科「地域美術演習」とビジネス実務学科「テーブルコーディネート演習」その他の各学科の専門教育科目間の連携等により、分野の異なる3学科の特徴をいかした効果的な学科間連携教育を推進する。

また、包括連携協定締結機関・団体等と連携し、SDGsに関する学科間連携教育を実施する。

教養教育においては、Society5.0を生き抜く力の育成に向け、数理、データサイエンス、AIに関する科目の開設や見直しを含め、「基礎教育科目」を体系化する。

## （4） 地域連携活動の推進

本学の教育資源をいかし、白山市を中心とした産学連携・地域連携活動を充実させる。なお、活動の充実に向けて、地域連携・貢献活動の窓口を一本化し、活動情報の集約・発信体制を整備する。

公開講座や出張講座においては、感染症対策を念頭に置いたオンライン配信を検討するとともに、公開講座をベースにした生涯学習プログラムを検討する。



幼児教育学科においては、大学子ども福祉学科と連携し、地域の子育て世代を対象とした「金城子育て支援センター」を開設し、専門知識をいかした子育て支援活動を推進する。

また、研究活動においては、全学的な研究テーマに基づく推進体制を整備し、地域の活性化に資することを旨とする。

#### (5) 組織運営の充実

学科、別科などの教育組織の編成においては、時代や地域社会の状況に適合したものとなるよう整備し、これに対応する教職員を計画的に配置する。併せて、体系的な FD 及び SD を推進し、教職員の資質向上、能力開発を促進するとともに、教員の人事考課制度の導入を検討する。

また、事務組織の強化に向けて、教職協働をより一層進め、体系的な SD の推進、事務組織・事務体制の検証と改善、目標管理制度の定着・改善、事務の効率化と事務職員の育成を推進する。

#### (6) 施設設備の整備

短期大学は、開学から 45 年が経過していることから、当初に建築した校舎の改築又は大規模改修が第 4 期中期計画の主要な施設計画となるため、その準備に着手する。

このほか、施設の補修、図書館の整備、既存設備の安全・維持管理、学習・生活環境の充実、通信環境の整備その他の施設設備計画を適切に推進するとともに、情報機器その他の設備を計画的に更新する。

また、キャンパス整備の組織的体制を整備し、長期マスタープランを検討する。

#### (7) 効果的な学生募集・広報活動による入学者数の確保

高校生の進路選択状況の調査・分析その他の中期的な学生募集活動計画に基づく取組を推進し、入学者数を適切に確保する。取組推進に当たっては、ブランド構築を踏まえ、教育活動その他の学内情報を戦略的に発信する。

また、併設校その他の高等学校との高大一貫教育を念頭に置いた学生募集活動を検討する。

入学者選抜方法においては、新学習指導要領の内容を調査・分析し、学科試験を見直す。

外国人学生の募集活動においては、教育学術交流協定締結校及び国内日本語学校からの留学生受入強化に向けて、公式ウェブサイトを活用し、オンライン動画を含めた情報発信を充実させる。

#### (8) IR 及び自己点検・評価の充実

入学時、在学時、卒業時の学生の期待と評価を専門的知見により調査分析し、その結果に基づく内部質保証を推進するとともに、中途退学者の調査分析に基づく減少対策、学修成果（学習成果）の可視化に向けた取組等を強化する。

また、卒業生、在学生の保護者、卒業生の進路先等からアンケート等を通じて意見聴取を行い、教育・研究・地域連携等の向上につなげる。

機関別認証評価においては、次期評価に向けて、令和2（2020）年度の評価結果等を踏まえた改善計画の進捗管理を適切に行うとともに、他短期大学との相互評価について検討、実施する。

#### （9）他機関、団体との連携充実

包括連携協定締結機関・団体との連携活動を強化するとともに、共同研究、課題解決型学習プログラム等を検討する。

また、海外の大学との教育学術交流協定等に基づき、オンラインの手法も含めて、教員間、学生間における交流活動を強化する。

高等学校との連携においては、重点校を定め、高大連携活動を推進する。※<sup>2</sup>

### 3. 遊学館高等学校

#### （1）教育目標の達成に向けた取組の推進

授業アンケートや模擬試験結果等を踏まえた教育課程の改善、ICTを活用した学習支援等を強化するとともに、研究授業及び互見授業の強化、校内外の研修及び県外視察の充実により、教育の質の向上を図る。また、グローバルな諸課題に対応し得る基礎力を育成するため、英語検定資格取得者数の増加に向けた取組、海外姉妹校とのオンラインの手法も含めた交流等を強化する。

進路指導においては、大学・短期大学との連携を強化し、国公立・難関私立大学への進学、併設大学・短期大学への進学を含めた進学実績の向上につなげる。

部活動においては、加入率の増加に向けた取組を強化するとともに、強化指定部の大会での成績向上に向けた支援策を充実させる。部活動以外の課外活動については、生徒の主体性を伸ばすため、生徒会活動及び図書室利用の活性化並びに修学旅行その他の年間行事、遊学講座の充実に取り組む。

また、学校生活全般を通じて心身ともに健康な生徒を育成するため、人間教育及びスクールカウンセラーを活用した取組を充実させる。

以上の取組と併せて、在校生、卒業生、在校生の保護者、卒業生の進路先等からの各種アンケート等による意見聴取を強化するとともに、IRを充実させることにより、各活動の改善につなげる。

---

※<sup>2</sup> 令和2年度に受審した一般財団法人大学・短期大学基準協会による認証評価の向上・充実のための課題「卒業生の進路先からの卒業後評価の聴取については、聴取件数やその結果の活用という点で課題が挙げられており、意見聴取の方法やフィードバックの仕組み作りの検討が望まれる。」に対しては、令和2年度内に「就職先による卒業生評価調査」を開始し、令和3年度に学習成果の点検に活用する方法の改善などフィードバックの仕組み作りを検討し実施することとした。

## (2) 組織運営の充実

教員採用、教科ごとの教員配置その他の人事計画を適切に推進するとともに、保健室、相談室体制を強化する。また、学生寮の再編や運営体制の強化に向けた取組を行う。

## (3) 施設設備の整備

施設の補修、既存設備の安全・維持管理、学習・生活環境の充実その他の施設設備計画を適切に推進するとともに、学生寮の新築について検討する。本計画に基づき、令和4年度に高校の新学生寮の建設事業に着手し、令和5年5月着工、令和6年4月竣工（予定）で整備することとした。

## (4) 効果的な生徒募集・広報活動による入学者数の確保

安定した入学者数を確保するため、効果的かつ効率的な生徒募集・広報活動を計画し、実施する。とりわけ、特別進学コース及び金城大学コースの入学者数増加に向けた広報活動を重点的に行う。

公式ウェブサイトについては、アクセス状況に関する調査分析を強化し、効果的な活用に向けた施策を講ずる。

また、生徒募集・広報の強化を目的とした組織を新たに設置し、中期展望に基づく戦略的募集計画に基づく取組を推進する。

## 4. 金城大学附属西南幼稚園

### (1) 教育・保育の質の向上の推進

教育方針「遊びの中に学びがある」を具体化した活動を推進し、教育・保育の質の向上につなげる。令和3（2021）年度においては、令和2（2020）年度に続き「身近な人との関わりの中での育ち～言葉の伝え合い・豊かな感性と表現～」を重点目標に掲げ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」（以下「10の姿」という。）のうち「豊かな感性と表現」を重視した取組を行う。令和4（2022）年度以降は、2年ごとに、前年度までの総括に基づく新たな重点目標を設定し、実践する。併せて、在園児及び卒園児の保護者、卒園児の進学先等からの各種アンケート、聞き取り調査等による意見聴取を強化し、諸活動の改善につなげる。

また、姉妹法人蝶屋こども園との園児交流及び人事交流を推進するとともに、園内外の研修及び他園の視察を充実させる。

### (2) 併設大学、短期大学との連携推進

併設大学・短期大学の各分野専門の教員が講師となる「わくわくタイム」の在り方を見

直し、保護者や地域のニーズに応え得る活動を推進する。

未就園児対象の体験保育「わくわくくらぶ」においては、併設大学・短期大学との連携強化により活動内容を充実させる。

また、併設大学・短期大学教員との交流会議を定期的に開催し、専門的知識・技術の強化につなげるとともに、公開研究会の開催を検討する。

併設大学・短期大学において開設予定の「金城子育て支援センター」と連携し、地域の子育て支援活動を推進する。

### (3) 組織運営の充実、施設設備の整備

西南幼稚園の経営強化に向けて、運営委員会を含めた組織体制を充実させるとともに、将来の方向性検討に必要な各種情報及び資料の収集、調査及び分析活動を強化し、計画的に実行する。

### (4) 効果的な園児募集・広報の実施による入園児数の確保

入園児数の適切な確保に向けて、未就園児対象の体験保育「わくわくくらぶ」の実施の在り方を見直し、参加者数の増加につなげる。公式ウェブサイト及び SNS については、保護者や地域のニーズに沿うべく掲載情報の見直しを進めるとともに、更新頻度を高める。

また、中期展望に基づく戦略的募集計画の推進、効果的な情報発信等を行う。

## 5. 法人本部・金城幼稚園

### (1) 組織運営の充実

教職員の採用、配置その他の人事計画を適切に推進する。また、体系的な FD 及び SD を推進し、教職員の資質向上、能力開発を促進するとともに、事務職員の人事考課を検証し、適宜改善を進め、大学及び短期大学教員の人事考課制度についても導入を検討する。

### (2) 施設設備の整備

短期大学の将来の方向性を検討し、校舎の改築について検討する。

休園中の金城幼稚園については、将来の方向性を検討し、令和 5 年度末までにその存廃の結論を出すこととする。

西南幼稚園においては、将来の方向性を検討し、施設設備の整備計画を策定する。

### (3) 財政基盤の確保

旅費交通費その他の支出経費を見直し、管理経費比率を削減するとともに、教職員の適切な人事計画により人件費比率の適正化を図る。

また、各学校の戦略的募集計画に基づく学生・生徒・園児の募集強化活動を支援する。さらに、補助金等を積極的に獲得し、併せて寄附金の募集についても前向きに取り組む。

#### （４）創立 120 周年（2024 年）記念事業の実施

創立 120 周年（2024 年）に向けて、その記念事業として、学部・学科等の新增設や教育施設の新築の検討を行うとともに、建学の精神・教育理念・設立の理念等の再解釈を含め、本学園の発展に資する事業を計画し、実行する。また、創立 120 周年記念誌を発行する。